

この記事はKCJ会誌2005年10月号に掲載されたものです。

## トブランキウス・フスコタエニアートゥス No. 053



撮影 S氏

加古川市でめだかには待っているAから、初めての投稿です。

### 1. 飼い始め

私が、初めて卵生めだかを飼ったのは、たしか2002年だったと思います。豊橋アマゾンさんのプレゼントで、*N. eggersi* エガーサイ (Rufiji River ルフィジリバー) と *Riv. cylindraceus* リウールス・キリンドラキウスを各1ペア頂いたのがきっかけです。

いま思うと、「卵目の飼育経験ゼロの人にルフィジは、あかんやろ～～」と突っ込みを入れたいくなりますが、その小ささと、胸鰭のばたばたと可愛く、かなりの時間水槽の前で魅入っていたことを覚えています。多分いただいた個体は生後2ヶ月強だと思いますが、すぐにコショウに罹り、1週間でめだかの世界に戻っていかれました。

リウールスは、元気で、勝手に何もしないのに10匹ほど殖えましたが、あまりのあっけなさに、飼いつづける楽しさが見出せず、6ヶ月ほどで、当時お付き合いのあった、グッピーのプロショップに引き取っていただきました。

### 2. 再挑戦

ルフィジがめだかの世界に戻ってしまってから、しばらくグッピーオンリーで、飼育していましたが、どうしてもあの「胸鰭ばたばた」がもう一度見たくなり、豊橋アマゾンさんに *N. rachovii* ラコビー3点セットを頼んでしまいました。卵は、タイミングがまだつかめない、経験の無い状態で、孵化せずじまいでしたが、今回は、親と、稚魚が育ってからの採卵で、2週ごとに採卵して5回～6回分くらい卵を確保しました。最初にピートをあげて卵があったときは、うれしくて、300個超まで数えま

した。

S水槽の周りに発泡スチロールを張って、爬虫類用の保温電球の上に金網の棚を作って、サーモスタットで、温度管理して、4ヶ月後を楽しみにしていましたが、2ヵ月たってチェックすると、卵は全部消えていました。大失敗。

### 3. 3度目の正直がうそ

3回目は、KCJのアクアライフでのプレゼント企画での挑戦でした。京都のOさんに、お礼の電話をしたときに、ついでに卵の保管方法についてアドバイスいただきました。で、今回は大成功。と、思いきや、卵をとるまもなく、オスが昇天。いまだに理由がわかっていません。僕って、めだかの飼育に向いていないのね。もうやめようかなという気持ちもちらほら出ましたが、ま、また機会があれば、やってみよう、ということで、リベンジの機会を待つことにしました。

### 4. やっと成功

前出のグッピーのプロショップで、問屋からめだかのリストが入ったという情報を得て、*N. palmqvisti* パームクイスティを入手しました。今回は、卵も取れたし、保管方法もOさんにアドバイスいただいたことを守ってみました。2ヵ月後、「爆発だ～～」「芸術は、爆発だ～～(故 岡本太郎氏)」。200くらい浮いたでしょうか？その2週間後、「爆発だ～～」。400くらい浮いたでしょうか？両方とも4Lプラケで、1ヶ月近くそのまま飼育して、きつそうなので、60cm水槽に色が付き始めた個体から順に入れていって、ほとんど落ちることなく成長しました。もちろんフィルターなしの止水では、無理で、スドーのプリーディング・フィルターのSを使っています。卵キープに使ったピートは、結構長くプラケに入れたままです。ノトでもピートが入っているほうが水が安定しているように思います。

でも、600匹もどうするのって考えが及ばず、先のグッピーショップ経由40～50ペアずつ流通に流していただきました。もし、どこかで価格崩壊が起きていたら、ごめんなさい。

このときに思ったのは、あまりにも簡単に大量に増えるので、簡単すぎて面白くなくなって、めだか人口が増えないのでは？ということです。でも、奥は深い。一応繁殖までこぎつけました。やっと成功。でも数のコントロールは、まったくできていません。後日、T師匠から、(いまでも、時々)言われたことは、「そんな、全部潰けたら、大変ですよ。ピートすこしだけ小分けして潰けないと～～」。まさにその通り。

### 5. さて、フスコタエニアートゥス

*Nothobranchius fuscotaeniatus* フスコは、はじめて師匠の温室を見せていただいたときに、グリーンのメタリックがとてもきれいなめだかが居たことを覚えています。*Au. nigripinnis* ニグリ(RK99)、*Au. alexandri* アレキ(マルチストライプ)各1ペアと、ノトの卵数種をいただきましたが、フスコは、水槽も用意できていなかったし、わたしも今ほどあつかましくなく、次の機会にさせていただきました。

私は、グッピーも飼っているのは青系が多く、ニグリとアレキをはじめとする南米年魚には、即、はまりましたし、フスコもいつかは飼いたいと思いつけて2ヶ

月?? 次の訪問の時には、しっかりおねだりして、ゲット!! たしか、成体でいただいで、水が他のノトと少し違うかなと思っているうちに、落としてしまって、再度卵でいただいたと思います。しかも卵研さんや、豊アマさんなど、プロショップ以外の流通経路では、絶対といってよいくらい手に入らないロケ付き。私は、ロケが付いていようが、無かろうが、きれい物はきれいで、OK。というのがベースですが、グッピーと違って、交雑をしないことに価値観があると言うのも新鮮でした。

私の温室を見られた方は、思わず目をそらす光景(ブラケに? 百匹)を目にされていますが、このフスコと、エガーサイ、ラコビーだけは、過密飼育に弱いようです。いまでも時々「爆発じゃ〜」って、やっていますが、これら3種は、なるべく早いうちに少なくとも複数のブラケに分割して落とさないように気をつけています。

フスコって、きれいだし、卵に毛が生えているところなんか、ひょっとして少し流れがあるところで産卵するのかなと想像したり、いろいろ楽しい魚です。

ノソの3年間維持プログラムにも入っていて、*N. korthausae* RED コーソザエ・レッド(ASですが、イエローは出ないように選別・淘汰済み)、*N. palmqvisti* パームクイスティ(ASでエントリーして現在はGEZANIに鞍替え、これって維持したことになってない?)とこのフスコタエニアトゥスは、しっかり維持して行こうと思います。

## 6. これでおわりです

めだかのオフ会は、グッピーのそれと違って、なぜか、楽しい。グッピーのオフ会もいろいろと参考になる話が聞けて、得るものは大きかったと思いますが、なぜか、格段にめだかの方が楽しい。皆さん、今後とも、よろしくです。



撮影 No.7

*Nothobranchius fuscotaeniatus*(ノトブランキウス・フ

スコタエニアトウス)

Kitonga

North TAN 97/9 No. 007



撮影 No.7

数年前に、アメリカのDさんから依頼が有り、フスコの卵を送ったことがあります。その時、彼から次のような内容のメールを受け取りました。「Kitonga North TAN 97/9の現地採集者ワッターズ博士から次のことを聞きました。フスコのTZ97/57は既に趣味界からは消えたと判断してよい。1998年に、前年採集した場所へ行ったが、見つからなかった。現場が様変わりしており、絶滅したものと思われる。この種は大切だから是非とも維持しなければいけません。」

この魚の最初の記述者はLothar Seegers氏で、「ノトの仲間の内では体にもヒレにも赤の色素を持たない唯一の魚であり、メスにも通常シッポの方半分に薄い黒いタテ線が入っていて、その意味でも唯一の魚である。」と述べています。メスにも模様が入るので幼魚の時はメス・オスの区別がつきにくく戸惑います。

ラテン語でFUSCOは「暗い、黒い、おぼろな」を意味し、TAENIAは「ひも、帯」を意味します。成魚になると、黒と言うか、青と言うか、緑と言うか、メタリック・カラーの帯が怪しくひかり、目をひきつけます。大きくなればなるほど、その濃さが増し、一見に価します。

この魚はWatters, WildcampとCooperの三氏に依り、1997年5月31日の夕暮れに初めて採集されました。この魚はタンザニアのKitongaの集落近くで採集されたので、一時的に“*Nothobranchius spec. Kitonga North TAN 97/9*”と

命名されました。同じ場所で、*N. lourensi*と*N. janpapi*が見つかり、同じロケ番号が与えられています。

同じ年の7月22日に、Lothar Seegers氏が上記と全く同じ二種類のノトと同時に新しいノトを捕まえTZ97 / 57と名付けています。

それ以来、この魚は同じ所で捕獲されたのかどうか議論されてきました。マーク・ベレマンズさんのサイト

(<http://users.pandora.be/marc.bellemans/Fuscotaeniatus E.htm>)にある生息地の地図を見ると三氏がフスコを捕獲した場所はMbezi川の近いRufiji川の北80キロになっています。Kitongaという名前はタンザニアの村名ではありませんので、間違いが生じたのかも知れません。ワッターズ博士によれば、“Kitonga”と呼ばれるのは川の南側にある集落で、その北側にある村を“Ndundu”とよぶ集落だそうです。道沿いにその“Kitonga”から南に2キロ行ったところが採集地点だそうです。ワッターズ博士がローゼンストック氏等とNdunduから逆にKitongaの方向にKitonga North TAN 97/9採集地に向かったが途中洪水で断念したが、Seeger氏の採集場所記述と全く同じ所で、Kitonga North TAN 97/9とTZ97/57は同じ場所で採集されたと確認できたそうです。

現在両方がフスコと認知されていますが、現実にはTZ97/57が消えた現在、TAN97/9しか存在しません。従い、ロケを忘れようが、外国から引いたフスコを掛けようが、アクアリウム・ストレイン(A/S)が絶対にできないノトの一種です。

所で、採集したのは二番目ですが、発表はSeeger氏のほうが早く、1998年、ドイツの熱帯魚関係の雑誌に、採集場所は10メートルぐらいの水溜りの一つで、深度が一番深い所で60センチと書いています。彼は温度等を全く測って居ませんが、三人組は観測しており、pHは6.5、温度は25 との事でした。

魚の説明はさておき、とは言っても、前置きの方が長くなりそうですが、私的経験を少々書いてみます。

私がフスコを知ったのは、家を新築して地下に水槽部屋を作り、卵生メダカの飼育を再開した2002年、亡きKさんからワンペアー貰ったのが最初です。Kさんからは、「兎に角シャイな魚で全く表に出てこない。居るか居ないか判らない。」と聞きました。表に出てきて餌をねだる迄、二日も三日も愛魚には餌を与えないKさんをてこずらせた魚に興味を持った次第です。聞いた通り、昼間は物陰に隠れており、出てくるのは電気を消した夜

間のみ。だから夜時々覗きに行ったものです。非常にキレイなのに昼間見えないのは残念といつも思っていました。何代も代を重ねてもシャイな所は変わりませんでした。これはもう一人のノト好きでいつもフスコを飼っておられた亡きIさんも同じようなことを言っておられました。

「結構汚い水でも平気な魚だ。」ともIさんはコメントされました。恐らく、それは「魚が顔を出さない。かわいくない。面倒見が他の魚より少なくなる。水換えが頻繁に行われない。水が汚れる。魚は我慢する。」という世界であったかと自分の経験値から推測しています。

病気をして一年間メダカから離れ、再開の折に、卵研の田中さんから稚魚か卵を快気祝いに送ってもらいました。暫くして、会場ではプラケに入っていました。物怖じしない所が気に入り、ノト部門優勝魚のAさんのフスコを春のコンペで、千五百円で入手（今でも楽しんでおり、安い買い物でした）。このペアは自宅に連れ帰っても態度は変わらず、餌をねだりに出てきます。一方田中さんのところから来たフスコも成長し、平気で出てきて餌を要求しだしたのは驚きました。

関東のフスコはシャイですこしも面白くないが、関西のフスコは物怖じせず餌を要求し、本当の美しさを披露してくれる！

幸い今関東ではフスコを飼っている人が居ないので、できる限り関西系のフスコを浸透させたいと願っています。ただ悩みは関東でノソを扱う人がいなくなった事です。先月も例会に数種類ノソを持っていきましたが、欲しいと言ってくる人があまり居られませんでした。ただし、ノトは駄目だと言っていたK0さんが「フスコは飼いたい。居たら欲しい。」と申され、内心、「隠れフスコ好きが居る。」と喜んだ次第です。「K0さん！早速次回にお持ちします！」

所で、この魚は成長も遅く、他のノトに比べ、おくてです。卵を生み出すのに10~12週間かかることもあります。現にコンペ優勝魚が一番いい140cmの水槽をワンペアで独占していましたが7月に入っても産卵しませんでした。ついに我慢ができずに、田中さんのところのオス2~3匹とメス3~4匹を同居させました。刺激されたのか、相手が変わってよかったのか、産卵を始めましたので一安心です。問題は魚が増えて水が汚れるので頻繁に水換えをしなければなりません。毎日底水をこまめに取り、10日に一回は水槽も塩で洗います。その時は100ccのみ元の水で後は総取替えです。卵は面倒ですのでまだ見ていません（本当の理由はまだピートが煮てない為。通常は水総替え時にピーとも変えます）。

餌はブライン、イトメ、生赤虫です。冷凍赤虫は無視されて寂しく底に残されラムズの餌になっています（フスコの水槽はラムズが良く発生しま

す)。

特に飼育上の問題点とか困難な点も無い、比較的飼い易いメダカです。それでいて、人を虜にする美しさを持ったメダカでもあります。

以上



撮影 No.7

追記

上記を即席で書き終えたら、気になる事がありましたので少々調べてみました。

まず早速、フスコの卵が有るかどうか確認をしました。期待に反し、わずかしが無く、慌てメス・オス再度分離し、メスに餌をたくさんやることにしました。フスコはメス・オス判明したら、分けて飼育した方がメスの育ちが良いようです(オスは結構攻撃的)。

次にTZ97 / 57は世界の趣味界から本当に消えたのか? この疑問が残りました。

各国のノト愛好家にメールを送ったら、来ました、来ました! TZ97/57の写真が!

オランダの卵交換仲間の一人からで、彼の話によると、オランダの愛好家がドイツ人から手に入れたもので、そのオランダ人も絶やし、オランダでは彼一人が飼育している由。彼も既にオスを落とし、卵は少々有るが、メスが3匹いるのみとのこと。実際写真を見ると全くTAN 97/9と区別が付きません。彼はご丁寧にKitonga NorthTZ97/57と言ってきました。Dさんのメールを鵜呑みにしなくて、良かったと思いました。

そうこうしている内に、採集者のブライアン・ワッターズ博士と交信しているKIさんから、二人の交信内容が送られてきました。

同じ水溜りから取れたフスコに二つの異なったロケーション番号が与えられているが、全く同じサカナ故、交配しても心配ない。ただし洪水や新規にできた灌漑用水路から他のロケで将来フスコが見つかる場合があるので、趣味界ではTAN 97/9 かTZ97/57どちらでも良いが、ロケを付けて残しておく必要があるとの事でした。現状一般的にはKitonga North TAN 97/9が一般的でしょう。

ドイツのシーガーズさんは、ワッターズさんのグループが先にフスコを発見し、発表用の文章を作成中であることを察知し、功をあせるがゆえに、慌てて先に発表をしたそうです。自分達は第一発見者にもかかわらず涙を飲んだという意味の内容を博士はKさんに書き送っています。

これで少々安心して追記は終わりとします。でもこれからフスコの写真を撮り、Iさんに送らなければなりません。腰が重いです。動く対象は、アフリカでキリンや象やシマウマなど大きな動物しか撮ったことが無いのに・・・最近では孫を写すくらい。さてどんな写真ができることか???



撮影 No.7